

教科 家庭	科目	家庭総合	(必修)	授業時数	2 単位
				履修学年	2 学年

目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-----	---

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
○生涯の生活設計 1	8	○子どもの生活と保育	12	○消費生活と意思決定	18
○青年期の自立と家族・家庭	10	○衣生活と健康	14	○持続可能なライフスタイルと環境	6
○子どもの生活と保育	6	○生活における経済の計画	4		

教材	授業の進め方
未来へつなぐ家庭総合 365 (教育図書) 未来へつなぐ家庭総合 365 マスターノート LIFE 大人ガイド (教育図書)	・生活をさまざまな視点でふりかえり、多様な価値観にふれる。 ・生涯を見通しながら、自分や家族、地域生活の充実をめざす。 ・協働して課題の解決をめざし、社会の中で生活を創造しつづけることを意識する。

●評価規準 (身に付ける力)

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	人の一生と家族・家庭、子どもとのかかわりと福祉、消費生活、衣生活について理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に論理的に表現しながら、課題を解決する能力を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・マスターノート ・実習課題 ・考査	・マスターノート 提出課題 ・考査 ・レポート作成	・提出課題 ・学習のふりかえり ・学習者の相互評価

単元別 評価規準

1 生涯の生活設計 1

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・生涯発達の視点から、各ライフステージの特徴・課題と、それに対応した意思決定の必要性について理解している。 ・人生で起こりうるライフイベントについて理解している。	・人生について想像し、目標を想定することができる。 ・生活設計について自分の考えをまとめ、表現することができる。	・生涯発達の視点から、各ライフステージの特徴・課題に関心を持っている。

2 青年期の自立と家族・家庭

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・青年期の自立について理解している。 ・現在の家庭の特徴について、家族機能の変化や人々の意識の変化などから理解している。 ・生活にかかわる法律の基本的な趣旨、家庭生活を支える社会制度について理解している。	・生涯発達の視点から青年期のどのように過ごすか具体的に考え、意見をまとめることができる ・「ワーク・ライフ・バランス」の視点から、職業労働の在り方について考えをまとめることができる。	・青年期の発達課題について関心を持っている。 ・青年期の課題に主体的に取り組もうとしているとともに、他者との協働をめざそうとしている。

3 子どもの生活と保育（子どもはどう生まれ育つ 子どもとどうかかわろう）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義を理解している。 ・保育における親や大人の役割を理解している。 ・子どもの食事や衣服を整える技能について理解しているとともに、適切にできる。	・子どもの発達段階に応じた親や大人の適切なかかわり方について考え、意見をまとめることができる。 ・子どもの生活環境について課題を見いだすことができる。	・子どもの発達に関心をもち、年長者として主体的に子どもに関わりようとしている。 ・子どもの生活環境をより良いものにしようとしている。

4 子どもの生活と保育（これからの子育てとは）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・現代の子どもを取り巻く環境の変化と課題について理解している。 ・子どもの権利や子育てを支援する社会のしくみについて理解している。	・現代の子どもを取り巻く環境の課題について、意見をまとめることができる。 ・子育てを支援する社会のしくみを調べ、まとめることができる。	・子育てを支援する社会において、自分ができるところを見だし、協働して課題に取り組もうとしている。

5 衣生活と健康

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・被服の機能や被服が健康に与える影響について理解している。 ・被服の入手、洗濯、保管、再利用や廃棄など、被服管理の技術について理解しているとともに、適切にできる。	・被服の機能や安全性に配慮しながら、状況に応じた着装をすることについて考え、意見をまとめることができる。 ・環境に配慮しながら被服計画や被服管理を行うことについて分析し、意見をまとめることができる。	・被服の機能や安全性、環境への配慮をしながら、自分の衣生活を創造し、よりよいものに改善しようとしている。

6 生活における経済の計画

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	家計と経済社会のかかわりを理解している。家計における収入と支出、キャッシュレス社会が家計に与える利便性と問題点について理解している。 ・生涯を見通した経済計画について必要な情報の収集や整理が適切にできる。	・さまざまな金融商品のメリットとデメリットについて具体的に調べ、まとめることができる。 ・将来必要となる費用、将来の経済的なリスクについて調べ、金融商品の活用や資産形成について考え、まとめることができる。	・生涯を見通した家計の管理や計画、リスクの管理について、主体的に考え対応しようとしている。

7 消費生活と意思決定

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・消費行動における意思決定の過程とその要因について理解している。 ・さまざまな契約のしくみや、消費者の責任、消費者保護のしくみについて理解しているとともに、トラブルに陥った際の適切な相談先を調べることができる。	・消費者問題の事例を調べたり被害防止策や救済の請求方法について調べたりし、適切な行動のとりかたについてまとめることができる。	・消費者の権利や責任に関心をもち、社会のなかでの消費者の役割について主体的にとらえている。 ・自分の消費行動をより良いものにしようとしている。

8 持続可能なライフスタイルと環境

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・環境問題に関する基本的な知識を身に付けている。 ・環境問題に対し、国際社会が何を目標としているか理解している。	・環境問題を科学的に考察したり身近な生活との関係について分析したりすることができる。 ・国内外での具体的な取り組みについて収集しまとめることができる。	・環境への負荷が少ない生活文化について考え、自分ができるところに取り組もうとしている。 ・持続可能なライフスタイルを目指そうとしている。

教科 家庭	科目	家庭総合	(必修)	授業時数	2 単位
				履修学年	3 学年

目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。
-----	---

●学習内容

1 学期	2 4 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 4 時間
○食生活と健康	24	○食文化	8	○生涯の生活設計 2	8
		○高齢者の生活と福祉	14	○住生活と住環境	16
		○共生社会と福祉	8		

教材	授業の進め方
未来へつなぐ家庭総合 365 (教育図書) 未来へつなぐ家庭総合 365 マスターノート (教育図書) LIFE 大人ガイド (教育図書)	・実践的・体験的に学び、生活を科学的に理解する。 ・生活の中から問題を見だし、それをどう解決するか、過程に注目して学ぶ。 ・生涯を見通しながら、自分や家族、地域における生活の充実をめざす。 ・持続可能な社会に参画し、生活を創造しつづけることの意義について理解を深め、協働して課題の解決に取り組めるようになることをめざす。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・高齢者とかかわりと福祉、食生活や住生活、生活設計などに関する知識について理解しているとともに、それらに係る技術を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に論理的に表現しながら、課題を解決する能力を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域社会における生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・マスターノート ・実習課題 ・考査	・マスターノート 提出課題 ・考査 ・レポート作成 ・グループ活動	・提出課題 ・学習のふりかえり ・学習者の相互評価

単元別 評価規準

1 食生活と健康

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	食と健康のかかわり、栄養素の特徴とそれを多く含む食品、食中毒や食物アレルギーについて理解している。 ・日常食の調理について、献立作成、食材の選択、安全、調理技術、盛り付けについて理解しているとともに、適切にできる。	・自分の食生活を分析し、傾向や課題をまとめ、発表することができる。 ・調理実習や実験、資料収集などを行うことを通じて、食の安全性や栄養素について考え、課題をまとめることができる。	・栄養素や食品の知識を生かして、自分や家族の食生活をより良いものにしようとしている。 ・食の安全・衛生について関心を持ち、科学的にとらえようとしている。

2 食文化

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準 (身に付ける力)	・食事のマナー、状況に応じた調理や配膳のしかたについて理解している。 ・世界の食文化の特徴、日本の食文化の特徴を理解し、食と人の関わりや食文化の継承の意義について理解している。 ・資源やエネルギーに配慮した食生活や、災害時を想定した食品の購入・保管調理について理解しているとともに、適切にできる。	・日本や世界の食文化について調べ、まとめることができる。 ・現在の食を取り巻く課題について調べ、まとめることができる。	・多様な食文化の背景をふまえ、状況に柔軟に対応しながら、食文化を創造しようとしている。

3 高齢者の生活と福祉

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	- 日本の高齢者福祉の課題、高齢者の生活を支える制度や地域社会のしくみについて理解している。 - 高齢者の心身の特徴、状況に応じた関わり方について理解しているとともに適切にできる。	- 高齢者の生きがいや社会参加について、聞き取りをしたり資料を調べたりしてまとめ、発表することができる。 - 高齢者の自立した生活を支えるための、家族・地域・社会の役割をまとめることができる。	- 高齢者の自立と尊厳について、当事者の立場に立って理解しようとしている。 - 高齢者の生活に関心を持ち、自分のライフプランに生かそうとしている。

4 共生社会と福祉

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	- 共生社会の意義や重要性を理解している。 - ユニバーサルデザインの意義や重要性を理解している。	- 共生社会を実現するための課題について、実例をあげ自分の意見をまとめることができる。 - 身の回りのユニバーサルデザインを調べ、その良さをまとめたり、改良点をまとめたりすることができる。	- 人の多様性を認め、多様な価値観を尊重し理解しようとしている。 - 共生社会を実現するため、自分にできることを考え、取り組もうとしている。

5 生涯の生活設計

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	人生を自分のものとして設計し、生活資源を活用しながら生涯発達し続けていくことの大切さを理解している。	- 自分の生活時間を把握し、分析することができる。 - 生活資源について調べることができる。 - 自分らしいライフスタイルを実現するため、生活設計を立てたり発表したりすることができる。	- 社会での役割を果たしながら、自分らしいライフスタイルを築こうとしている。 - 生活資源を活用したり、ライフスキルを磨いたりしようとしている。

6 住生活と住環境

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	- 安全で快適な住生活を送る知識を身につけ、環境に配慮した住生活について理解している。 - 住居の平面図を読み取ることができる。 - 住まいを選択する際に必要な情報を収集・整理し、計画を立てることができる。	- 防犯・防火、防災などの安全性が高く、採光、換気、遮音などに配慮した住まいについて考え、まとめることができる。 - ライフステージや動線、目的に応じた居住空間や住まい環境の計画を行い、表現することができる。 - 多様な住まい方について調べ、まとめることができる。	- 安全で健康的な将来の住まい方について考えようとしている。 - 地域社会で協働しながら、住まいにかかわる課題に取り組もうとしている。

令和6年度（2024年度） 学習の手引き（シラバス） 長野工業高等学校
課程 定時制

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2	学年	4	学科	選択
----	----	----	---------	-----	---	----	---	----	----

1. 科目の目標

- ①食事計画・ライフステージと栄養、食品の選択と調理の基本、テーブルコーディネートや食事のマナーについて系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
②生活環境や季節に応じて食材を調理し、食生活を豊かに創造できるようにする。

2. 使用教科書

フードデザイン新訂版	実教出版	家庭313
------------	------	-------

3. 学習の計画

学期	月	学習の内容	考査範囲	予定時数
1 学 期	4月	調理の基本	期末考査 左記範囲	24
	5月	だし、味覚効果、食品の食感や温度、 素材の持ち味等、おいしさに関わる要素		
	6月	調理様式と献立		
	7月	調理実習 和風献立、洋風献立、 災害時の食事計画		
2 学 期	8月	食事計画	期末考査 左記範囲	30
	9月	ライフステージと栄養計画 食品ロスと食糧自給率		
	10月	食事の意義と役割 テーブルコーディネート 調理手順の工夫		
	11月	調理実習 中華風献立 行楽弁当 焼き菓子		
3 学 期	12月	食育		24
	1月	調理実習 正月料理 日常の弁当		
	2月			

合計 78 時間

4. 評価の方法

- ①考査②出席状況③実習を含む授業への取り組み④提出課題により総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ①日頃より食生活の充実向上を心がける。
②調理実習では、手洗いを適切に行い、身支度を整える。
調理器具を適切に扱い、衛生的で安全な調理を行う。
③相互にコミュニケーションをとり、合理的かつ創造的に学習できるよう心がける。